

事業所名

MIRAI小松

支援プログラム (参考様式)

作成日

7

年

2

月

28

日

法人(事業所)理念	我々は「預かり場所」ではなく「よくなる場所」の実現を目指し、重症心身障がい児を対象にした放課後等デイサービスを全国に拡大し、より多くの障がい児たちに洗練された質の高い「ハビリテーション」を提供し「彼らの生活レベル」、「活動レベル」、「人生レベル」に貢献することを基本目的とする。					
支援方針	重症心身障がい児のお子様ที่安心、安全に通所できる環境を提供し、生活リズムが整うために必要となる身体運動を行い、身体が楽になる、日中の活動の質が向上することを支援方針とする。質的評価、量的評価を行い、問題に対する原因や潜在性を考えることにより、一人一人に合った効果的な支援を提供し成長を促すことが可能である。					
営業時間	9時	30分	18時	0分	送迎実施の有無	あり
支 援 内 容						
本人支援	健康・生活	看護師が医師の指示書や保護者からの要望に沿った形で医療的なケアを行います。バイタルサインのチェック及び全身状態の把握を行い、異常の早期発見・対応を行い健康状態の維持、向上を目指して支援を行います。また、食事やトイレでの排泄などの生活動作の習得や、夜によく眠れるといった生活リズムの形成ができるよう支援します。				
	運動・感覚	児の身体機能を維持向上させるように理学療法士が身体機能面などを評価し、それぞれの児の特徴などを理解した上でリハビリのプログラムを立案、機能訓練を実施します。療育活動の中でも視覚や聴覚、触覚などから色々な刺激を感じ、児の能力を引き出したり成長を促せるように取り組みます。				
	認知・行動	普段の療育活動や季節のイベント、外出等を通して、児が快に感じるものや不快に感じるものなど個性を把握します。それぞれの児が楽しいと思えることに積極的に取り組み、苦手なことは助け合って解決していける環境を提供します。達成感が味わえるような取り組みを大事にしながら、児の成長を促します。				
	言語 コミュニケーション	家庭や学校での様子を伺いながら、他児や職員とコミュニケーションを楽しみます。言葉だけでなくジェスチャーやアイコンタクト、表情など児に伝わりやすい表現を用いて積極的にコミュニケーションをとります。児の思いや感情の変化を汲み取りながら共有、共感し、児のコミュニケーション能力の向上を目指します。				
人間関係 社会性	職員との1対1での活動や他児との集団での活動など、様々な活動を通じて人間関係や社会性を育てていきます。児の特性に合った方法で人間関係や社会性を育てるように、家庭や学校、他の関係機関などとも連携しながら支援を行います。					
家族支援	固定の利用日や利用時間以外の利用希望があった際などでも可能な範囲で利用いただけるように対応します。ケアの方法や当施設での過ごし方など、保護者から要望があった際にはそれらに合わせた対応を行い、自宅で安定して過ごせるように努めます。利用時の様子を写真や記録で保護者が確認できます。また入浴支援を行うことで、保護者の介護負担の軽減を図ります。	移行支援	主として小学生～高校生の児童のため関係機関と連携し、生活介護や就労支援事業所への移行に努めています			
地域支援・地域連携	学校へお迎えに伺った際に学校の先生と体調面などの情報を共有し、学校と連動したケアができることを目指します。	職員の質の向上	看護師会、理学療法士会、児童指導員会を2～3回/月開催 外部研修・勉強会の参加 救命救急の研修の参加			
主な行事等	季節のイベント、防災訓練等					